

学 校 評 価 報 告 書

1 実施時期

- | | |
|----------------------------|----------------|
| (1) 第1回学校関係者評価委員会 | 令和6年 6月 7日 (金) |
| ・令和6年度学校評価について | |
| ・令和6年度 学校評価実施計画について | |
| (2) 令和6年度第1回学校評価(重点項目) | 令和6年 7月12日 (金) |
| (3) 第2回学校関係者評価委員会 | 令和6年 9月13日 (金) |
| ・令和6年度前期学校評価結果について | |
| ・学校経営状況等について | |
| (4) 第3回学校関係者評価委員会 | 令和6年11月29日 (金) |
| ・令和6年度後期学校評価について | |
| (5) 令和6年度後期学校評価(総合) | 令和6年12月11日 (水) |
| ・生徒アンケート、保護者アンケート実施 | |
| (6) 第4回学校関係者評価委員会 | 令和7年 2月20日 (木) |
| ・令和6年度後期学校評価結果について | |
| ・学校評価の検証と令和6年度教育活動に向けた意見聴取 | |
| (7) 学校評価報告 | 令和7年 3月 6日 (木) |
| (8) 学校評価結果の公表 | 令和7年 3月25日 (火) |

2 実施内容

- (1) 学校関係者評価委員会構成委員(12名 ※学校運営協議会委員と兼務)
- (2) 学校評価(自己評価)・・・・・・・・・・重点課題7領域及び総合29項目
学校評価(自己評価)の参考資料として
ア 生徒アンケート・・・・・・・・・・22項目
イ 保護者アンケート・・・・・・・・・・3領域19項目
- (3) 学校評価について職員会議で検討
ア 前期学校評価結果 8月26日(月)職員会議
イ 後期学校評価結果 2月 3日(月)職員会議
- (4) 学校関係者評価委員会における学校評価結果の検証等
ア 第1回 学校関係者評価委員会 令和6年 6月 7日(金)
・令和5年度学校評価結果について
・令和6年度学校評価実施計画について
イ 第2回学校関係者評価委員会 令和6年 9月13日(金)
・令和6年度前期学校評価結果について
ウ 第3回学校関係者評価委員会 令和6年11月29日(金)
・令和6年度後期学校評価計画、内容等について
エ 第4回 学校関係者評価委員会 令和6年 2月15日(水)
・令和6年度後期学校評価結果について
生徒アンケート、保護者アンケート結果との比較

・学校評価の検証と令和7年度教育活動に向けた意見聴取

(5) 自己評価の検証結果をもとに教育活動の改善(10月、3月)

3 令和6年度 学校評価(教職員による自己評価)のまとめ

【成果】

ア ほぼすべての項目においてA及びB評価の合計が90%以上となっている。学校図書館の活用、GIGAスクール構想の推進の2項目が90%以下であった。おおむね良好な学校運営等がなされていたと考える。(令和5年度は学校図書館、生徒の体力向上の2項目、令和4年度は5項目が90%未満、)

イ 評価Aが80%に近い項目、または超える項目は9項目であった。

ウ 令和5年度と比較して評価Aの項目で割合が向上した項目数は17項目(全29項目中)であった。

10%以上、評価が向上した項目は、生徒の思考力、判断力、表現力を高める授業の実践、不登校生徒の減少に向けた組織的な取組、安全教育の推進とともに体力の向上、環境整備であった。

エ TLIについてはA評価が87%となり、昨年度比約60%向上した。

オ 保護者、地域への情報発信についてはA評価が100%であった。

カ 働き方改革については、A評価が30%台と低い状況ではあるが、わずかに向上が見られる。

【課題】

ア 学校図書館の活用については昨年度も課題となっていたが、本年度はさらに学校図書館を活用した読書活動の推進に課題が見られた。学校図書館の利活用については新たな方針、方策が必要である。

イ 太平ノートの活用については評価が低くなっている。デジタル化も含めて検討が必要である。

ウ いじめ根絶への取組についてはA評価が75%、B評価が25%であり、C評価が0となったが、この項目はA評価が100%でなければならない。取り組みが十分でないと考えている職員がいることから、生徒指導部で課題を明確にする必要がある。

エ コミュニティ・スクールの項目についてはA評価が大きく低下している。A、B評価を合わせれば令和5年度同様であることから、毎年、コミュニティ・スクールに関する活動が充実してきていることを含め、教職員に対してもコミュニティ・スクールに対する広報活動を増やす必要がある。

【総合】

学校評価結果から、本年度の学校教育活動はおおむね良好に進めることができたと考ええる。しかしながら、昨年度から引き続き課題となっていること、今年度見えてきた新たな課題もある。来年度に向け、今後は各分掌、委員会が中心となり、小組織ごとに課題を明確にし、解決に向けた取り組みを考えていくボトムアップ型の組織づくりが重要

であると考え。また、働き方改革に向けた業務の一層のコンパクト化にも取り組む必要がある。

令和6年度評価結果と 令和5年度学校評価結果との比較

令和6年度 学校評価(教職員による自己評価結果) 令和5年度との比較

領域	項目	令和6年度				令和5年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
学校運営	学校は、「社会に貢献できる人材の育成」を実現するため、凡事徹底に取り組んでいる。	54.2%	45.8%	0.0%	0.0%	43.5%	56.5%	0.0%	0.0%
	学校では、適切な教育計画のもと、教育課程(授業、学校行事等)が円滑に運営されている。	79.2%	20.8%	0.0%	0.0%	87.0%	13.0%	0.0%	0.0%
	学校は、適切な校務分掌を設定し、役割分担がなされ、組織的・計画的な学校運営を行っている。	58.3%	37.5%	4.2%	0.0%	52.2%	43.5%	4.3%	0.0%
学力向上	学校は、学力向上プランに基づき、わかる授業を計画的・継続的にを行い生徒の学力を高めている。	54.2%	45.8%	0.0%	0.0%	65.2%	26.1%	8.7%	0.0%
	[学校は、基礎・基本となる知識や技能を習得させる授業を行っている。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	69.6%	26.1%	4.3%	0.0%
	学校は、主体的、対話的で深い学びを推進するため、生徒の思考力や判断力、表現力を高める授業を行っている。	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%	39.1%	56.5%	4.3%	0.0%
	学校は、TLI(太平ラーニングイノベーション)に取り組み、新しい学びを積極的に推進し、学びのイノベーションを図っている。	54.2%	37.5%	8.3%	0.0%	87.0%	13.0%	0.0%	0.0%
	学校は、学校図書館等を活用した読書活動を推進している。	16.7%	62.5%	20.8%	0.0%	39.1%	34.8%	21.7%	4.3%
	学校は、太平ノートを有効に活用している。	41.7%	54.2%	4.2%	0.0%	56.5%	43.5%	0.0%	0.0%
	学校は、学習活動等にICT機器やアプリケーションを活用して、GIGAスクール構想を推進している。教育のDX化、AIドリルの活用	50.0%	33.3%	12.5%	4.2%	47.8%	43.5%	8.7%	0.0%
	学校は、職員の共通理解に基づいた生徒指導を推進している。	75.0%	20.8%	4.2%	0.0%	78.3%	21.7%	0.0%	0.0%
心身の教育	学校は、職員の共通理解に基づいた、生徒の心に寄り添う教育相談体制を構築している。	79.2%	20.8%	0.0%	0.0%	78.3%	17.4%	4.3%	0.0%
	学校は、道徳的価値の理解を基に、生徒の道徳性を養う道徳教育を行い、豊かな人間性・感性の育成に取り組んでいる。デジタル・シティズンシップ	70.8%	29.2%	0.0%	0.0%	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%
	学校は、いじめ根絶を目指した取組を組織的にやっている。	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	78.3%	17.4%	4.3%	0.0%
	学校は、不登校生徒の減少に向けた取組を組織的にやっている。	58.3%	37.5%	4.2%	0.0%	47.8%	47.8%	4.3%	0.0%
	学校は、家庭や地域社会、関係機関・団体等と連携した生徒指導等を行っている。	66.7%	29.2%	4.2%	0.0%	60.9%	39.1%	0.0%	0.0%
	学校は、食育や健康教育、保健指導(感染症の予防、アレルギー対応)などを通して、生徒の心と体の健康の保持増進に努めている。	79.2%	20.8%	0.0%	0.0%	73.9%	21.7%	4.3%	0.0%
特別活動	学校は、学校行事や部活動などを通して、安全教育を推進するとともに生徒の体力向上を図っている。	79.2%	16.7%	0.0%	4.2%	65.2%	21.7%	13.0%	0.0%
	学校は、生徒会活動などの集団活動を通して、レインボープランなど生徒が主体的に取り組む仲間との絆づくりの活動を行っている。	70.8%	25.0%	4.2%	0.0%	65.2%	30.4%	4.3%	0.0%
	学校は、清掃活動や環境整備を行い、きれいな教室・きれいな学校づくりを推進し、適切な学習環境づくりに取り組んでいる。	62.5%	29.2%	8.3%	0.0%	52.2%	47.8%	0.0%	0.0%
環境整備	学校は、生徒の作品や生徒の様子が見える掲示などを整備し、学習にふさわしい環境を整備している。	79.2%	20.8%	0.0%	0.0%	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%
	学校は、安全点検や避難訓練、パトロール活動等を通して安心で安全な学校づくりに取り組んでいる。	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%
	学校は、家庭や地域等との連携を深め、それぞれの役割を自覚し地域ぐるみで生徒の育成に取り組んでいる。	70.8%	25.0%	4.2%	0.0%	73.9%	17.4%	8.7%	0.0%
地域連携	学校は、校内の情報を「学校だより」や「学年だより」、HP・配信メール等を通して、保護者や地域に積極的に発信している。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	95.7%	4.3%	0.0%	0.0%
	学校は、コミュニティ・スクールとして学校運営協議会の取組を通じ、地域との連携を深めている。	79.2%	16.7%	4.2%	0.0%	91.3%	4.3%	4.3%	0.0%
	学校は、働き方改革を進め、働きやすい労働環境づくりに努めている。(業務の精選、優先順位、業務支援システムの活用)	33.3%	58.3%	8.3%	0.0%	30.4%	60.9%	8.7%	0.0%
働き方改革	教職員は、教育公務員、公務員として専門性を高めるため、スキルをアップの研修等に取り組む、資質・能力を高めている。	50.0%	45.8%	4.2%	0.0%	47.8%	47.8%	4.3%	0.0%
	教職員は、服務の厳正に努め、全体の奉仕者にふさわしい行動をしている。(職員事故の根絶)	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%	82.6%	13.0%	4.3%	0.0%
	他 太平中学校は、地域に誇れる学校である	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	78.3%	21.7%	0.0%	0.0%
平均		64.8%	31.6%	3.3%	0.3%	66.4%	29.4%	4.0%	0.1%

☆ 網掛けは人評価が追加したところ

4 生徒アンケート結果

ア 全校生徒アンケート結果から

○…成果と考えられること △…課題と考えられること

○全項目の平均で「している」と回答した生徒は約61.3%であった。「している」、

「だいたいしている」を合わせると約91.9%となる。昨年度と比較すると「している」については-2.9%（令和5年度は+8.5%）「している」、「だいたいしている」の合計は-1.3%（令和5年度は+3.8%）と減少しているが、令和4年度から令和5年度にかけて大幅に向上したことを考えると、昨年度ほどの向上は見られないが、「している」、「だいたいしている」の合計が約91.9%と90%を超えていることから、おおむね良好な学校生活の状況であると考え。

- 「している」の回答、上位3つは、「先生はいけなことをしたときに、きちんと注意してくれる」、「友達を大切にして仲良く過ごしている」、「交通ルールを守って生活している」であった。交通ルールやマナーの重要性を理解していること、友達との関係を大切にしている生徒が多いこと、教員の指導を素直に受け止めていることわかる。
- 教員に関する質問に関して、「している」「だいたいしている」の合計では、「わかりやすく説明している」が94.1%、「わかるまで教えている」が94.3%、「頑張ったことをほめてくれる」が94.7%、「自分の話をよく聞いてくれる」が98.0%であった。「している」の割合が減少している項目もあるが、生徒は今年度もおおむね教員と良好な関係が築けていると考える。
- 本年度の課題であった「自分の考えや言葉をプレゼンテーションなどで発表している」については、「している」が50%には届かなかったが、令和5年度から13%向上しており、教育活動の成果が見られる。
- 太平中学校の生活に満足していると回答した生徒は「している」、「だいたいしている」の合計で95.7%であった。学年ごとに「している」の割合をみると、2、3年生は向上しているが、1年生は低下している。

△全体的には令和5年度より「している」と回答した割合が低くなっている。学年ごとにみると1年生は減少、2年生はほぼ同じ、3年生は増加であった。特に1年生の減少率が大きいことから、自己肯定感や自己有用感を高める必要がある。

△「している」と回答した生徒の割合が低い（50%以下）項目は、「自分の考えを言葉やプレゼンテーションなどで発表している」、「宿題や自学ノートなど、家庭学習がしっかりできている」、「レインボープランを意識して生活している」、「太平ノートを毎日活用している」の4項目であった。「太平ノートを毎日活用している」が最も低く、ノートの活用について今後はデジタル化も検討していく必要がある。他の3項目については、「している」の割合が50%以下ではあるが、令和5年度より向上している。

「家庭学習がしっかりできている」については、全国学力・学習状況調査アンケート結果からも全国平均と比較して低いという結果も出ている。小学校ともこの課題を共有し、学習時間、学習量を増加できるよう、AIドリルやレインボー・アワーなどを活用していく必要がある。

「レインボープラン」については、本校独自の7つの取り組みである。令和4年度から比較すると令和5年度が+17.2%、令和6年度は+1.9%と2年で約20%向上していることから、目標を意識した行動がとれるようになってきたと考え

る。さらに7つの目標を意識させる取り組みが必要である。生徒会、各専門委員会
が中心となって生徒自らが進められる取り組みを計画し、実践していく。

△昨年度より「していない」の回答が1%以上増加した項目は「家庭学習」、「太平洋
での生活の満足度」、「太平ノート」、「困っていることなどの相談」であった。特に
「困っていること、悩んでいることを誰かに相談している」については、昨年度の
2倍となっている。1年生の割合が多いことから、学校としても生徒からていねい
に話を聞く機会を確保していく必要がある。また、保護者にも啓発をしていく必要
もある。

△「学校で起きたことなどを家庭でよく話している」の項目について「していない」、
「あまりしていない」と回答する割合が1, 2年生共に高くなっており、20%を
超えている。家庭との連携を深めていく必要がある。

※総じて生徒アンケート結果では、学年が上がるにしたがって学校生活全体の満足度は
高くなっている。

5 保護者アンケート結果から

○19項目中15項目で「そう思う」、「だいたいそう思う」の合計が80%を超えて
おり、学校教育活動がおおむね良好と考えている保護者が多い。

90%を越えた項目は「ホームページ、メール等で情報を提供している93.8%」、
「清掃が行き届き、綺麗である90.6%」、「教職員は接遇・マナーがよい90.6%」
であった。情報公開、提供については学校評価（教職員による自己評価）と同様の
結果となっており、本年度の広報活動については良好であったと考える。

○80%を下回った項目は「教職員は生徒を理解している78.1%」、「学力を適切に
評価している78.1%」、「生徒は情報端末を適切に利用している77.4%」、最も
低かった項目は「生徒は家庭学習し、学力向上に取り組んでいる71.9%」であっ
た。家庭学習に課題があることを保護者も認識している。昨年度も同様の傾向であ
り、家庭学習等による学習量の増加が本校の学力向上に関する課題である。AIド
リル、レインボー・アワーなどの取組の充実が必要である。

○令和4年度からの3か年の比較でみると、令和6年度は令和5年度と比較して、全
体的に評価が低くなっているが、令和4年度とは、ほぼ同程度の評価となっている。

6 学校関係者評価委員会による評価

(1) 令和6年度評価結果

No	学校経営、教職員の服務等について	令和6年度	令和5年度	令和4年度
1	学校は、学校教育目標の具現化に向け取り組んでいる。	4.0	3.6	3.5
2	学校は、学習指導の充実に取り組んでいる。	3.8	3.4	3.7
3	学校は、いじめ防止や生徒理解のため、生徒指導、教育相談の充実に取り組んでいる。	3.7	3.5	3.7
4	教職員は、生徒一人一人を大切にした学年・学級づくりに取り組んでいる。	3.7	3.8	3.7
5	学校は、生徒の安全安心、不審者対応や交通事故防止などの安全に関して、適切に取り組んでいる。	4.0	3.4	3.6
6	学校は、生徒の学力向上のため、ICT機器の活用や、授業改善に取り組んでいる。	3.7	3.8	3.3
7	学校は、保護者や地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる。	3.7	4.0	3.6
8	教職員は、教育公務員としての自覚を持ち、生徒の模範となるようマナーの向上に努めている。	3.7	3.6	3.5
No	生徒の活動等について	令和6年度	令和5年度	令和4年度
1	生徒は、集中して学習に取り組んでいる。	3.3	3.8	3.5
2	生徒は、ていねいな言葉づかいができています。	3.2	3.3	3.4
3	生徒は、友達や先生、来校者、地域の方々に進んであいさつをしている。	3.5	3.3	3.3
4	体育祭、合唱祭などの学校行事は、生徒にとって楽しく充実したものになっている。	4.0	4.0	3.8

(2) 学校関係者評価委員会評価の3ヵ年平均

領域ごとの平均値	令和6年度	令和5年度	令和4年度
学校経営、教職員の服務等について	3.8	3.6	3.6
生徒の活動等について	3.5	3.6	3.5
総 合 評 価	3.7	3.6	3.5

(3) 令和6年度学校関係者評価委員からの意見

- 個別の課題はあるにしても学校全体としての力量（学校力）は向上していると判断する。
- 学力向上の取り組み、工夫をしているが、生徒の学力向上に具体的に実を結ぶことを期待している。

(4) 学校関係者評価委員の評価結果から

- 総合的には評価が向上しており、おおむね良好な学校教育活動が行われていると評価されている。
- 「学校教育目標の具現化」、「生徒の安全安心、不審者対応や交通事故防止などの安全に」については、最高評価となっており、本校で課題としていた生徒の安全安心、交通事故防止の取組については、良好な取組であったと評価されている。
- 学校経営、職員の服務等については、良好な評価結果となっている。
- 生徒の活動等については、「あいさつ」については、評価の向上が見られるが、「集中して学習している」、「ていねいな言葉づかい」評価が低下している。この2点については、来年度以降の重点課題とする必要がある。

6 今後の課題等（学校関係者評価委員会での協議を含む）

- 開かれた学校教育、学校からの発信について高い評価であった。配信メールシステムや学校ホームページ等を効果的に活用したためと考えている。これからの学校はこれまで以上に家庭、地域社会や関係機関との連携、協力が重要であり、四者が応分にその責任を果たしていくことが必要となる。
学校の取組を発信するだけでなく、相互に参加できる事業などを計画することが重要である。
- 学力向上のための授業等の創意工夫として、特別な教育的支援の手法を用いた教育指導の研究を進めてきている。令和7年度も継続して研究を進めていく。特に、学習内容をまとめたことを自分の言葉などで発表させるアウトプット能力の育成や、主体的、対話的で深い学びにつながるTLI（たいへい ラーニング イノベーション）のような協働的な学習の充実が課題である。
- 学習量を増やすための取組として、AIドリルや反転学習といった家庭での学習を定着させるための指導の工夫について検討を進めていく。

- 読書活動として朝読書は行っているが、学校図書館の立地的な問題（4階の端にあり、学年によっては利用しにくい場所にある）もあり、学校図書館の利活用が少ない現状がある。出張学校図書館として校長室前廊下に蔵書を展示等しているが、さらにこのような取組を充実することが課題である。学校図書館の蔵書を学級貸し出しとして学級文庫などを整備するなど新たな工夫が必要である。
- 学習への集中、ていねいな言葉づかいについては、学校関係者評価委員会からも指摘されており、授業規律の徹底、普段の生活の中から、その都度指導することが効果的であることから、学校全体として取り組んでいく。
- 組織的な学校運営、教育課程、校務分掌などは、個人が負担増とならないよう組織的に対応する必要がある。
- 教育のDX化については、さらに進めていく。採点支援ソフト、生徒支援に関するソフトなど良質なソフトウェアと積極的に取り入れていく。また、教育事業者等との教材の共同開発や、学校予算の選択と集中など総合的な取り組みが必要である。学校だけでは解決できない課題となるため、教育行政機関の積極的な支援も必要となる。
- 働き方改革のさらなる推進が必要。個人の課題としては、効果的な学校教育を進める上での働き方に対する意識改革、組織としての課題は分掌等の平滑化と業務のスリム化が課題である。